

47 ユニバーサルデザイン

(2) 現計画の検証

施策	主な取り組み	進捗状況	問題・課題	今後の見通し、方向性
誰もが利用しやすい施設・設備づくり	ユニバーサルデザイン※による環境整備の普及、促進	公共施設でのバリアフリー化の推進及び新たに設置する施設についてはユニバーサルデザインとして進める。	玄関スロープや手すりなどバリアフリー設備の老朽化	
民間の住宅、宅地整備の促進 (住宅、宅地と重複)	ユニバーサルデザインの推進	公共施設ではユニバーサルデザインに配慮しており、広く町民に触れる機会を提供している。	ユニバーサルデザインの推進には、住棟配置や住まいの間取りの決定から、内装・建具・住宅設機器の選択まで、トータルにプランニングしなければならないことからコスト高となる。	住宅建築時には入居者に応じた設計としていることから、バリアフリー住宅が浸透している。

※ユニバーサルデザイン：能力や障がいのレベルにかかわらず、すべての人々が利用しやすいデザイン。